

令和5年度 第4回高齢者歯科医療講習会

- ◆日時 令和6年3月3日（日） 10時00分～12時20分
- ◆会場 静岡県歯科医師会館 5F「501大会議室」
- ◆対象 会員歯科医師及びスタッフ、多職種、行政等
- ◆定員 会場：60名（1診療所3名迄）



演題（60分）
「義歯と嚥下で考える高齢者の口腔機能管理」

講師 古屋 純一 先生
（昭和大学歯学部 口腔健康管理学講座
口腔機能管理学部門 主任教授）

1996年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
2000年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科高齢者歯科学修了（歯学博士）
2005年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座
2010年 岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座有床義歯補綴学分野
2013年 ハーバード大学歯学部留学
2014年 岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座
2015年 東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔健康管理学分野
2020年 昭和大学歯学部高齢者歯科学講座
2023年 昭和大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門

- ◆申込締切 令和6年2月28日（水）
- ◆申込方法 QRコードからお申し込みください。
※会場受講とWEB 受講で申込フォームが異なります。

会場受講申込み



<https://questant.jp/q/U69AI8N6>

WEB受講申込み



<https://qr.paps.jp/7ShPS>

第4回高齢者歯科医療講習会

講演要旨

義歯と嚥下で考える高齢者の口腔機能管理

古屋純一先生

演者は高齢者歯科を専門として、いわゆる歯科の外来診療に加えて、在宅、病院、施設での訪問診療を行っています。訪問診療では要介護状態にある方を診察していますが、義歯などの問題だけでなく、お口の動きに問題がある方が多くいらっしゃいます。そのため、義歯を治しても、口から好きな食べ物が食べられない方も少なくありません。これを摂食嚥下障害と言いますが、その最大の対応策は「摂食嚥下障害にならないこと」です。

口から食物を食べること、すなわち咀嚼と嚥下は統合的な口腔機能であり、そのためには義歯や舌などの個別の口腔機能とそれを使いこなす脳機能や社会性などが重要になります。このうち、口腔機能の複合的な低下をオーラルフレイルと言い、要介護や全身の虚弱（フレイル）の一因とも考えられています。

入れ歯があわない、歯槽膿漏、むし歯などで歯が悪く、軟らかいものばかり食べていると、オーラルフレイルが悪化しやすくなります。また、お口の問題があると社会参加が少なくなり、精神的にも引っ込み思案になりがちです。このようにお口の問題は全身の問題にもつながりやすいので、要介護にならないためにも、元気な時から定期的にきちんと歯科に通うことで、適合の良い義歯を入れて、口腔機能を貯金しておくことが大切です。

歯磨きは毎日のことですので、自分で歯磨きの大事さに気がつき、自ら前向きに取り組むことが大切です。同じように、口腔機能も自分でその大事さに気がつき、自ら積極的にオーラルフレイルにならないように取り組むことが大切です。大丈夫です、フレイルは可逆性が特徴なのです。そしてその中心を担うのが、歯科治療の最大の特徴である義歯による歯の回復なのです。近年、訪問診療においては医科と歯科の多職種連携・協働が重要とされています。誤解を恐れずに言えば、求められる医療は、口腔ケア4割、義歯4割、嚥下2割であり、他職種からみた歯科の専門性である義歯にいかに対応できるかが求められています。義歯を製作するという歯科医師にしかできない専門的な仕事は、実はフレイル予防や咀嚼嚥下連関を通じて、摂食嚥下リハビリテーションにもつながっています。本講演では、義歯と嚥下に焦点を当てながら、高齢者の食支援のために、オーラルフレイル・口腔機能低下症・摂食嚥下障害について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

主 催 一般社団法人 静岡県歯科医師会

お問合せ TEL : 054-283-2591

Email : tokusyusika@s8020.or.jp (担当 : 地域保健部・高齢期歯科専門部)